

東日本ユニオン TOKYO

JR東日本労働組合東京地方本部
発行責任者 郷 重雄
発行 東京地方本部教宣部
2018年 3月 7日 NO. 54

2018春闘第1回目交渉を行う！

組合側趣旨説明要旨

- 1987年9月24日、東日本鉄道産業労働組合（現東日本ユニオン）として「労使共同宣言」を締結して以降、「信義誠実」の原則のもと、平和裏に労使間の話し合いにおいて自主解決を図ってきた。この考え方はこれからも変わることはない。
- JR労働者の賃金は、努力に比べてあまりに低い。「労働力の価値」に対して適性価格とは言えない。相応しい賃金を支払う責任がある。
- JR東日本労働組合の考える賃金改善は、一律定額の「底上げ」だ。すべてのJR労働者が同じ時間軸において経営施策を担い、経験値を積み重ねている以上、労働力の価値に対する価格についても一律底上げだ。
- すべてのJR労働者は、経営側の掲げる「横断的重点課題」を自ら考え、仕事と向き合い、着実にJR東日本グループの価値を向上させ続けている。
- すべてのJR労働者の努力によって「2017年度通期業績予想」は間違いなく達成する。

経営側現状認識

- ベースアップの基本的認識は、職責、職能、資格、等級に加え、年齢に応じた生計費の水準など、様々な要素を総合的に勘案して決定している。
- ベースアップは経済動向、中長期の経営環境、生産年齢人口の減少などの環境の変化、生産性向上の実施に伴う人件費の推移、賃金カーブなどを総合的に勘案し、労使間の議論を経て決定するものである。

職場から声を上げ、満額獲得を勝ち取ろう

第2回目の交渉は3月12日（月）です